

# 平成14年におけるアカガレイの 漁業実態について

福島県水産試験場水産資源部  
平成14年度事業報告書

## 1 部門名

水産業－資源管理－その他魚種(海)  
分類コード 19-04-57000000

## 2 担当者

山田 学

## 3 要旨

近年、本県におけるアカガレイの漁獲が急激に増加し、沖合底びき網漁業における重要な対象種となりつつあることから、本年度から市場調査や操業実態調査を開始した。

### (1) 漁獲統計

- ア 本種は平成9年頃から急激に水揚量の増加がみられ、平成14年は県全体で約261t(104百万円)の水揚げを記録し過去最高となった。
- イ 本県底曳網漁業の拠点である相馬原釜漁協に水揚げされる沖合性魚種の中では水揚金額ベースで第8位に位置し、県全体でも底びき網漁業漁獲金額全体の約4%を占める(平成14年)。
- ウ 時期別にみた水揚量の特徴は、沖合底びき網漁業が2月と6月、小型底びき網漁業が2月に集中する傾向がみられた。
- エ 産地市場での平均価格は、平成3年にピークの1,210円/kgを記録して以来、水揚量が増加するにつれて低下した。しかし、平成8年以降は水揚量が急増したにもかかわらず価格は安定し、平成14年は410円/kgであった。

### (2) 漁獲魚調査

- ア 産地市場に水揚げされる本種の全長は20cm～40cmにわたるが、全長と年齢の関係は、22～28cm:雌3～5歳、雄4歳、32～40cm:雌7歳以上とみられた。
- イ 一方、雄は30cm以上には成長しないことが推測された。

### (3) 操業実態調査

- ア 民間船の操業日誌(標本船)からは、本種の漁獲海域と漁獲量が年々拡大していることが確認され、本種の資源量が増加していることを示唆している。
- イ しかし、平成13年以降は本種の資源分布密度に低下傾向が認められることから、今後の漁業実態を注視する必要がある。

## 4 その他の資料等

なし